



2018年10月1日

博報堂生活総合研究所

生活者の意識・行動・価値観の時系列観測調査

「生活定点」1992-2018 最新調査結果を発表

旧来の考え方から自由な意識・行動へと向かう生活者

博報堂生活総合研究所では、生活者の意識や行動の変化から将来の価値観や欲求の行方を予測するため、同じ条件の調査地域・調査対象者に対し、同じ質問を繰り返し投げかける時系列観測調査「生活定点」を、1992年から2年に一度実施しています。このたび新たに2018年調査を実施いたしました(調査概要は次ページ)。

本リリースでは2018年に“過去最高”・“過去最低”を更新した主な項目についてご紹介いたします。1992～2018年＝平成初期から終わりにかけての調査データの推移からは、旧来の考え方にとらわれない意識や行動を示しはじめた生活者の様子が見えてきました。

また、2018年調査を受け、「生活定点」調査の26年間・約1,400項目におよぶデータを無償公開するWEBサイトも10月1日よりアップデートいたしました。データ分析が身近でない方にも、意外な発見や発想のヒントを得ていただきやすい各種コンテンツもご用意しています。

1. 2018年に“過去最高”を更新した主な項目

		2018年	質問開始時点比
■働き	女性の上司のもとで働くことに抵抗はない	69.8%	(+36.3pt)
■消費・お金	クレジットカードを使うことに抵抗はない	58.7%	(+30.7pt)
■情報	情報は自分で検索しながら手に入れたいと思う	32.3%	(+10.3pt)
■恋愛・結婚	外国人と結婚することに抵抗はない	29.3%	(+9.1pt)
■交際	人づきあいは面倒くさいと思う	32.0%	(+8.8pt)
■働き	キャリアアップのためには、会社をかわってもかまわない	48.3%	(+7.1pt)
■暮らし向き	睡眠時間を増やしたい	60.0%	(+5.8pt)
■食	コンビニの食品は私の食生活には必要だと思う	20.4%	(+5.8pt)

2. 2018年に“過去最低”を更新した主な項目

		2018年	質問開始時点比
■贈答	お歳暮は毎年欠かさず贈っている	27.3%	(-34.5pt)
■社会意識	貿易の自由化は賛成である	20.1%	(-28.0pt)
■食	お米を1日に1度は食べないと気がすまない	47.9%	(-23.5pt)
■消費・お金	普及品より多少値段がはってもちよっといいものが欲しい	30.6%	(-22.8pt)
■恋愛・結婚	いくつになっても恋愛をしたいと思う	29.3%	(-20.6pt)
■遊び	家の中よりも、野外で遊ぶ方が好きだ	25.5%	(-19.9pt)
■衣	自分はおしゃれなほうだと思う	12.9%	(-9.8pt)
■暮らし向き	電車がくるのを待っている時間にイライラする	68.0%	(-6.7pt)

26年間・約1,400項目の調査結果公開 WEBサイトを更新 https://seikatsusoken.jp/teiten/

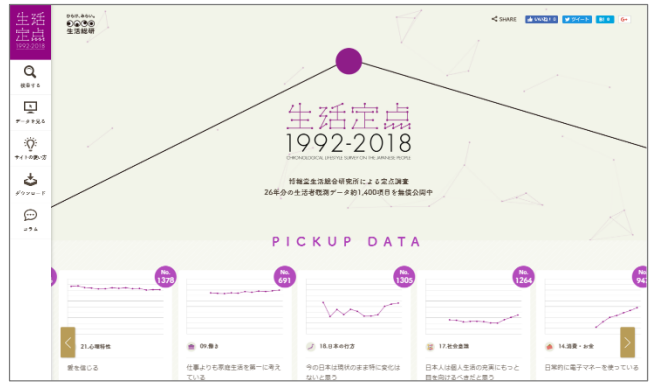
「生活定点」調査のほぼ全てのデータを無償公開する「生活定点WEBサイト」も、2018年調査結果を加えてアップデートしました。

膨大なデータをグラフィカルに「分かりやすく」表示するとともに、「意外な発見や発想のヒントを得たい」方のために様々な切り口でデータを紹介します。

データはPCからすべてダウンロード可能。

出典を明記していただければ、データをご自由にお使いいただけます。

(制作協力:チームラボ株式会社)

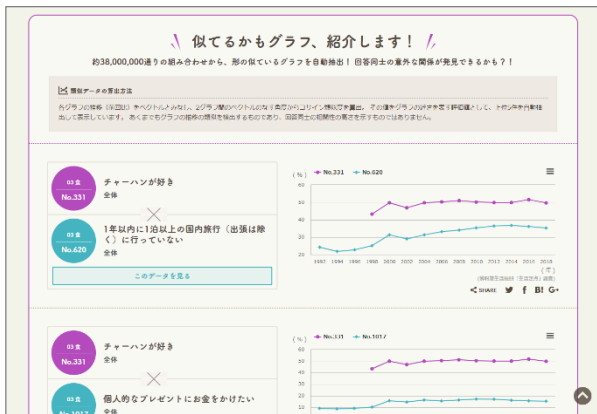


【約1,400の項目別ページ】

性別・年代別・地域別などのグラフも表示できます。

【ランキング】

ランキングの推移を10年ごとに閲覧できます。



【似てるかもグラフ】時系列グラフの形が似ている2つのデータを紹介。意外な組み合わせが発想を刺激します。

【人の属性で比較】男女差、年代差、地域差が際立った項目などを、約1,400項目の中からピックアップ。

「生活定点」調査概要

- 調査地域 首都40 km圏(東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、茨城県) 阪神30 km圏(大阪府、京都府、兵庫県、奈良県)
- 調査対象 20歳～69歳の男女 2015年 国勢調査に基づく人口構成比(性年代5歳刻み)で割付
- 調査人数 3,080人(2018年・有効回収数)
- 調査時期 1992年から偶数年5月に実施 (最新調査は、2018年5月16日～6月15日)
- 調査方法 訪問留置法
- 設計・分析 博報堂生活総合研究所
- 実施・集計 株式会社 H.M.マーケティングリサーチ

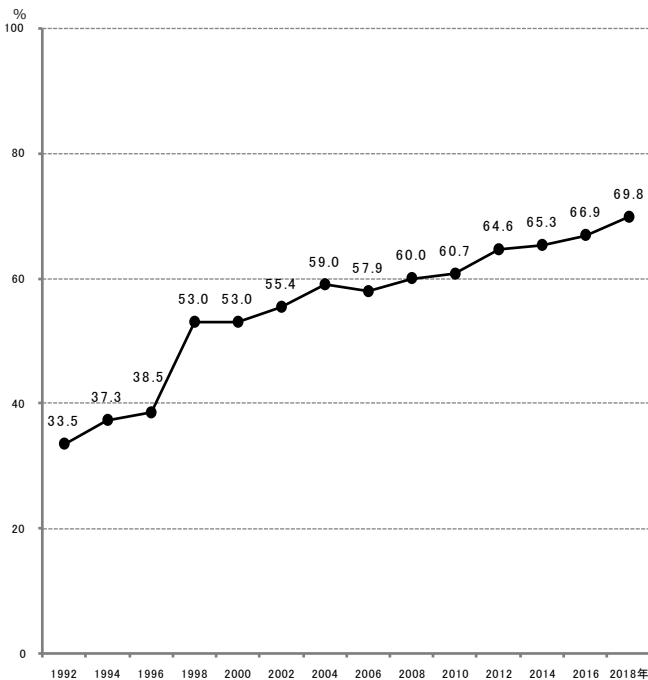
1. 2018年に“過去最高”を更新した主な項目

■ 働き

女性の上司のもとで働くことに抵抗はない

1992年33.5%→2018年69.8%(+36.3pt)

1992年以降ほぼ右肩上がりで増加。1998年時点で一気に5割を超え、直近2018年は当初から倍以上のスコアに。なお「外国人と一緒に働くことに抵抗はない」の回答も同様に増加しており(1992年40.4%→2018年58.1%)、生活者の職場の多様性への慣れがうかがえます。

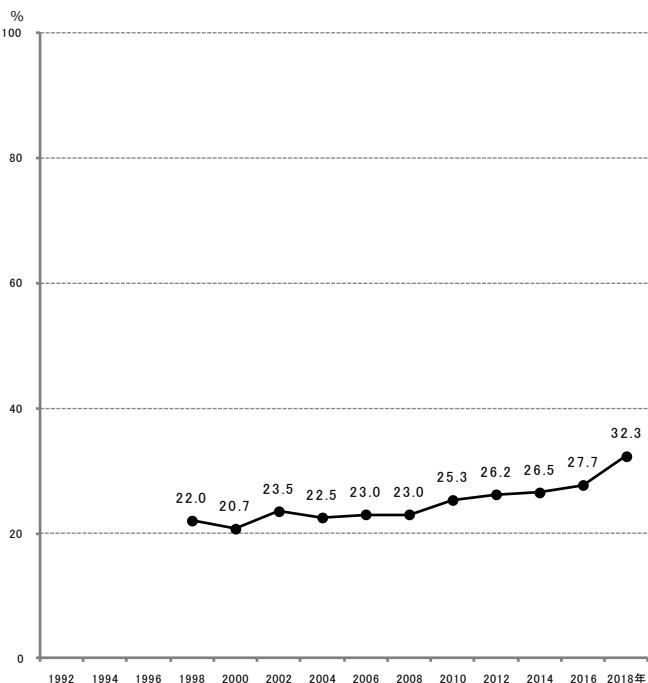


■ 情報

情報は自分で検索しながら手に入れたいと思う

1998年22.0%→2018年32.3%(+10.3pt)

1998年以降ゆるやかな増加基調で推移し、直近2018年で初めて3割を超えました。「情報を集める自分なりの方法を持っている」との回答も1998年12.9%→2018年21.1%と過去最高となっており、インターネット、スマートフォンが身近なものになる中で、能動的に情報を得ることに積極的な生活者が増えているようです。

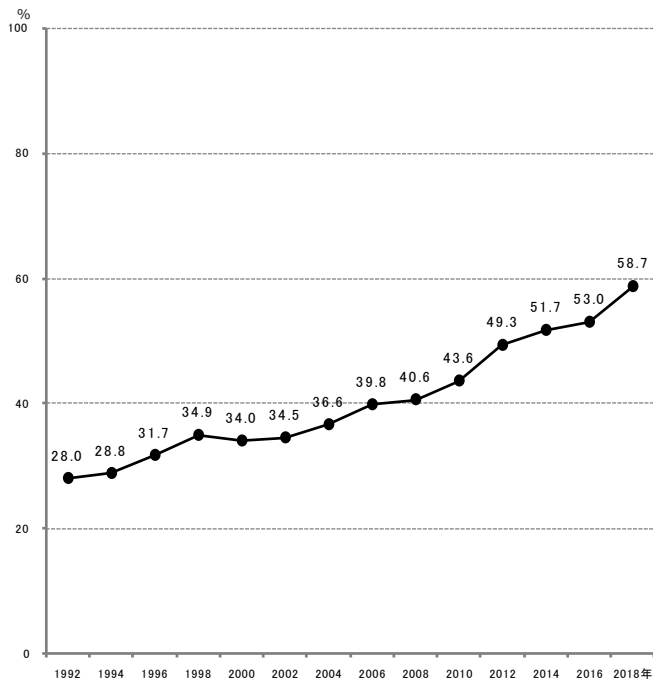


■ 消費・お金

クレジットカードを使うことに抵抗はない

1992年28.0%→2018年58.7%(+30.7pt)

1992年以降ほぼ右肩上がりで増加。2014年時点で5割に達して直近2018年は6割弱と、クレジットカード利用への抵抗感は徐々に減少しているようです。また「日常的に電子マネーを使っている」も2006年12.1%→2018年47.6%となり、支払い方の多様化が進んでいます。

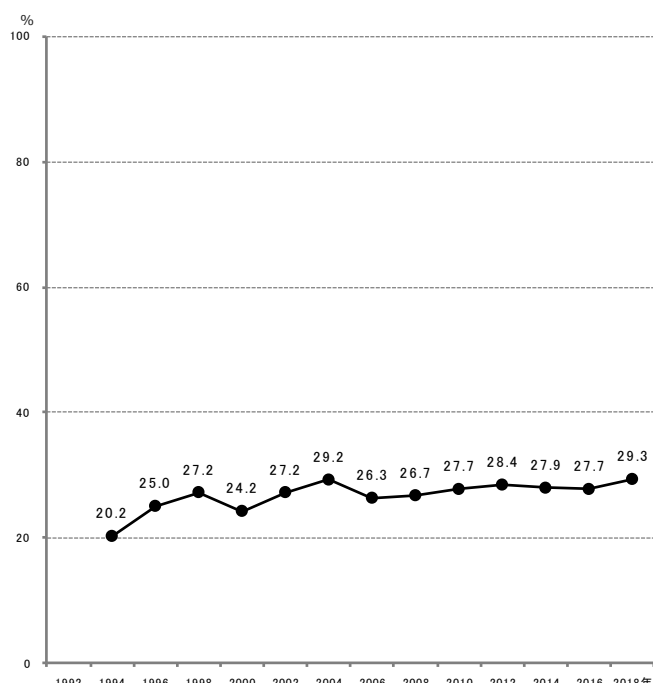


■ 恋愛・結婚

外国人と結婚することに抵抗はない

1994年20.2%→2018年29.3%(+9.1pt)

1992年以降若干上下しながら長期的にはゆるやかに増加しており、2004年時点での最高値29.2%を直近2018年に更新。急激な変化ではありませんが、生活者の結婚に対する意識も、平成の初期から終わりにかけて、少しずつ柔軟になっていることがうかがえます。



1. 2018年に“過去最高”を更新した主な項目(つづき)

■ 交際

人づきあいは面倒くさいと思う

1998年23.2%→2018年32.0%(+8.8pt)

1998年からしばらくはほぼ横ばいでしたが、2012年からやや伸び幅が増加し、2016年以降3割台で推移。なお「友人は多ければ多いほど良いと思う」の回答は1998年57.2%→2018年20.5%と半分以上に減少し過去最低に。20年間のうちに人との交際意識にも徐々に変化が生じているようです。

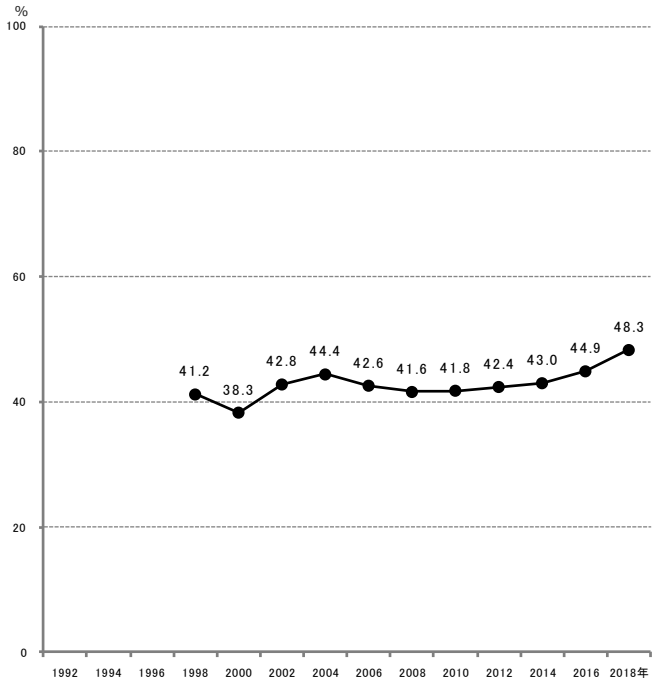
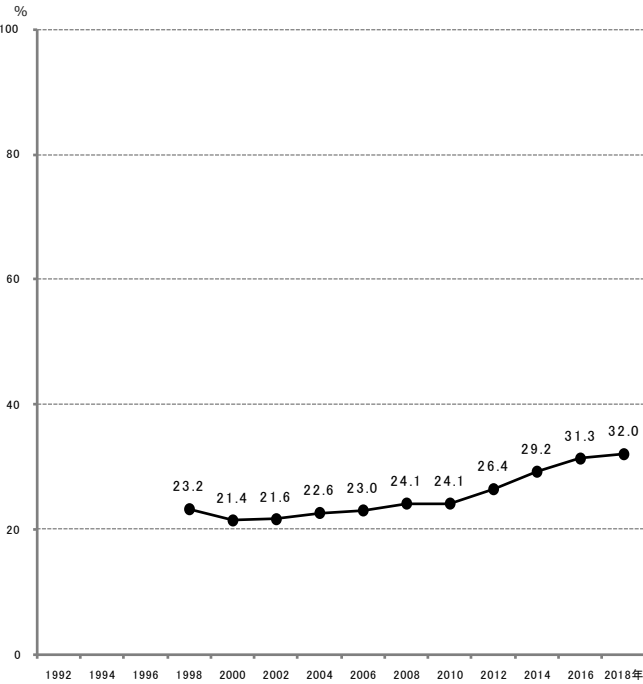
■ 働き

キャリアアップのためには、

会社をかわってもかまわないと思う

1998年41.2%→2018年48.3%(+7.1pt)

1998年の調査後しばらくは2004年時点の44.4%が最高値でしたが2016年に更新し、直近2018年にさらにスコアを伸ばしました。働くことやキャリア形成への意識が少しずつ柔軟なものに変わっていることがうかがえます。



■ 暮らし向き

睡眠時間を増やしたい

1996年54.2%→2018年60.0%(+5.8pt)

1996年の調査以降しばらくは50%台で推移していましたが、直近2018年に初めて60%になり過去最高となりました。同様の質問で「趣味にける時間を増やしたい」との回答は1996年62.2%→2018年55.3%と減少。「時間があれば休みに充てたい」という気持ちも、生活者のなかで徐々に強まっているのかもしれない。

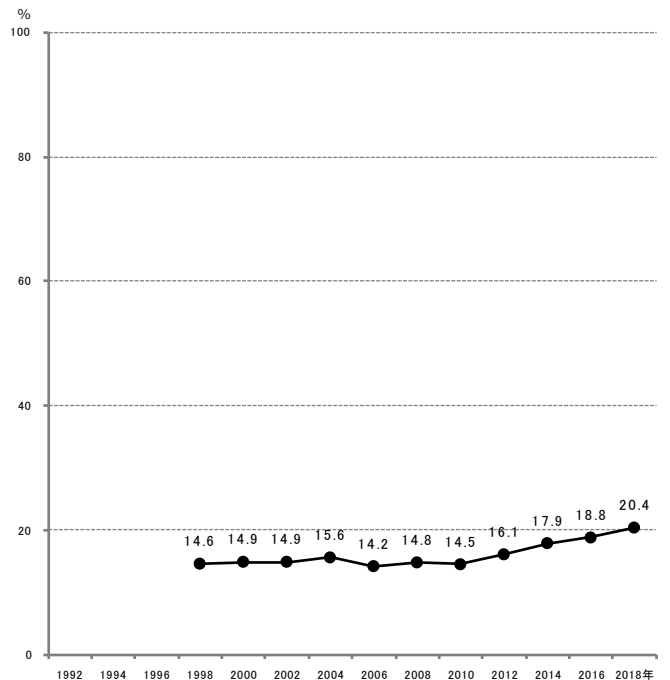
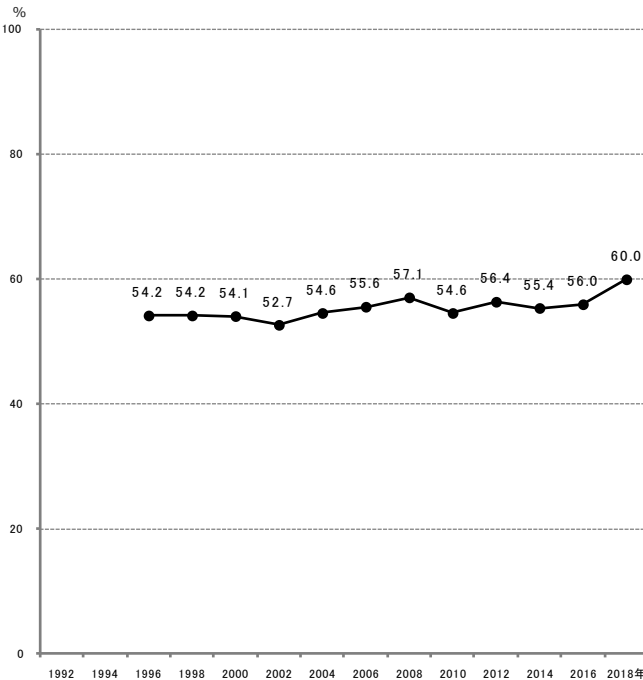
■ 食

コンビニエンスストアの食品は

私の食生活には必要だと思う

1998年14.6%→2018年20.4%(+5.8pt)

1998年の調査以降しばらくは15%程度で推移していましたが、直近2018年に初めて20%を超えて過去最高に。なお「調理済み食品をよく使うほうだ」との回答は1998年21.0%→2018年28.1%に増加。生活者の食生活は、20年間で徐々に手軽さ志向が高まっているようです。



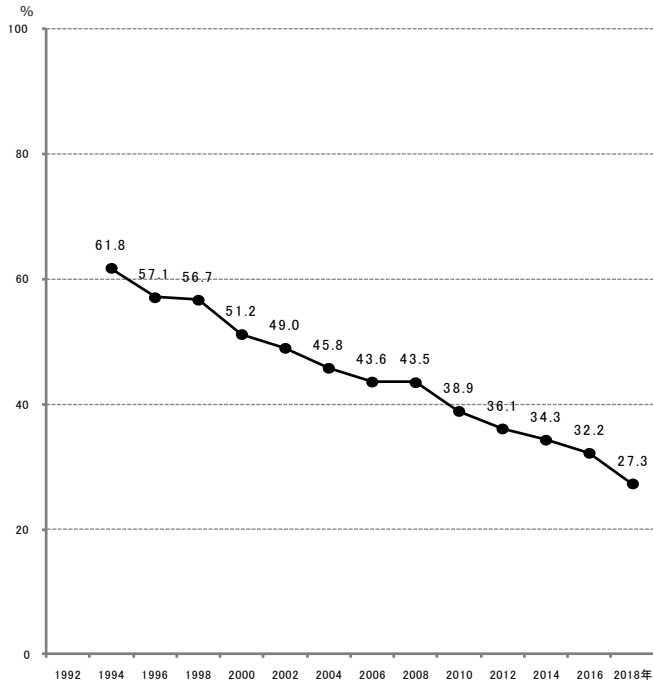
2. 2018年に“過去最低”を更新した主な項目

■ 贈答

お歳暮は毎年欠かさず贈っている

1994年61.8%→2018年27.3%(-34.5pt)

1994年以降ほぼ右肩下がり減少。直近2018年には初めて3割を下回りました。同様に「お中元は毎年欠かさず贈っている」も今回が過去最低に(1994年58.2%→2018年24.9%)。平成初期から終わりにかけ、生活者は伝統的な贈答儀礼にはあまりこだわらなくなっています。

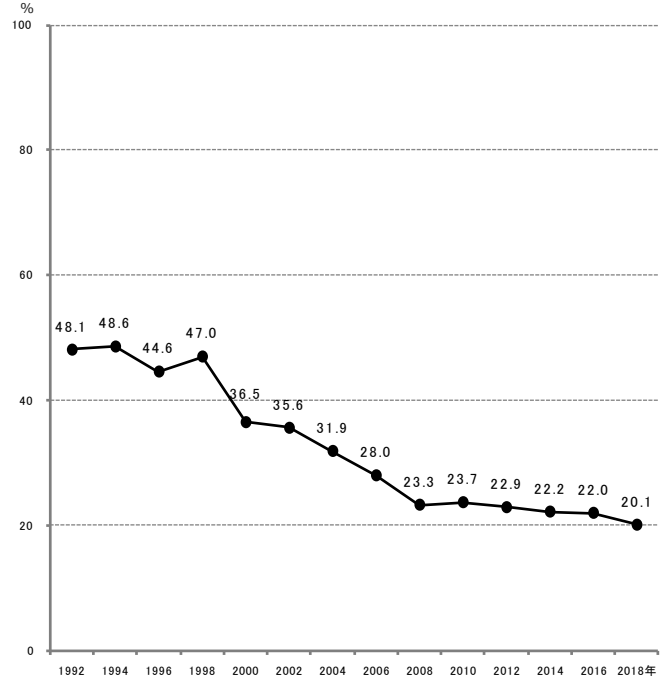


■ 社会意識

貿易の自由化は賛成である

1992年48.1%→2018年20.1%(-28.0pt)

1992年以降しばらく40%台で推移していましたが、2000年時点で30%台に低下し、その後減少を続けています。生活者は自由貿易の問題について、やや慎重な考え方になってきているようです。

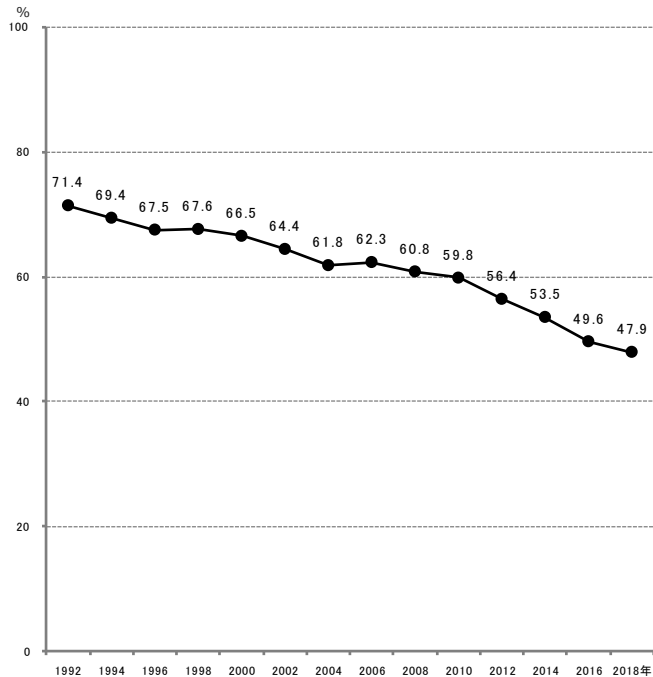


■ 食

お米を1日に1度は食べないと気がすまない

1992年71.4%→2018年47.9%(-23.5pt)

1992年以降ほぼ右肩下がり減少。2016年時点で5割を下回り、直近2018年で最低を更新しました。「和風の料理が好きなほうだ」についても1998年65.8%→2018年45.0%に減少しており、平成初期から終わりにかけ、生活者の食の嗜好にも変化が生じているようです。



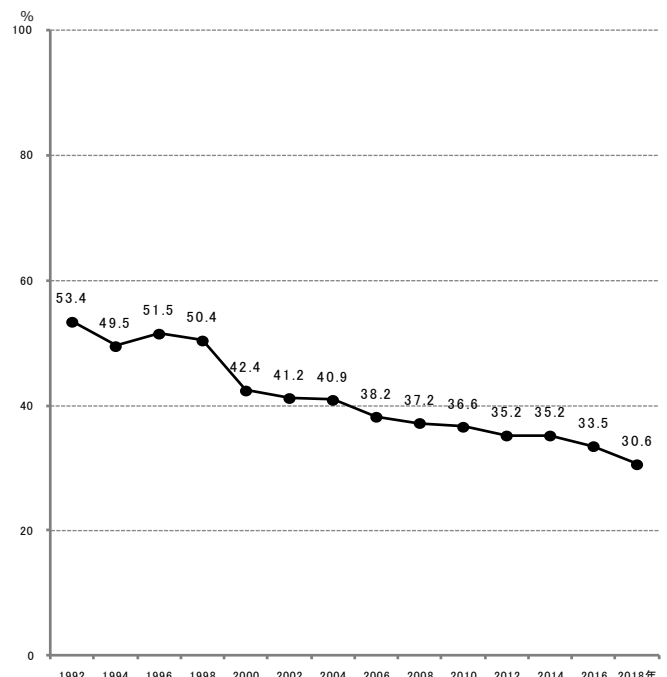
■ 消費・お金

普及品より、多少値段がはっても

ちょっといいものが欲しい

1992年53.4%→2018年30.6%(-22.8pt)

1992年以降しばらく50%前後で推移していましたが、2000年時点で40%台前半に低下し、その後ゆるやかに減少を続けています。経済的な低迷を経験したこともあり、生活者の消費スタンスは価格に対して慎重なものへと変化しているようです。



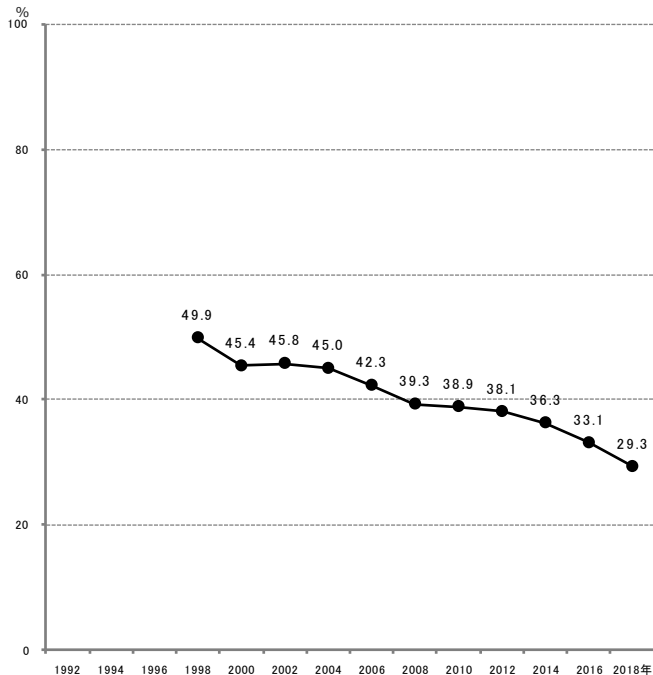
2. 2018年に“過去最低”を更新した主な項目(つづき)

■ 恋愛・結婚

いくつになっても恋愛をしたいと思う

1998年49.9%→2018年29.3%(-20.6pt)

聴取を開始した1998年時点には約5割でしたが、その後減少を続け、直近2018年に3割を下回りました。なお「好きなら不倫な関係でもしょうがないと思う」の回答は1994年18.0%→2018年10.3%に減少。恋愛に関して、浮ついた考えの生活者は徐々に少なくなっているようです。

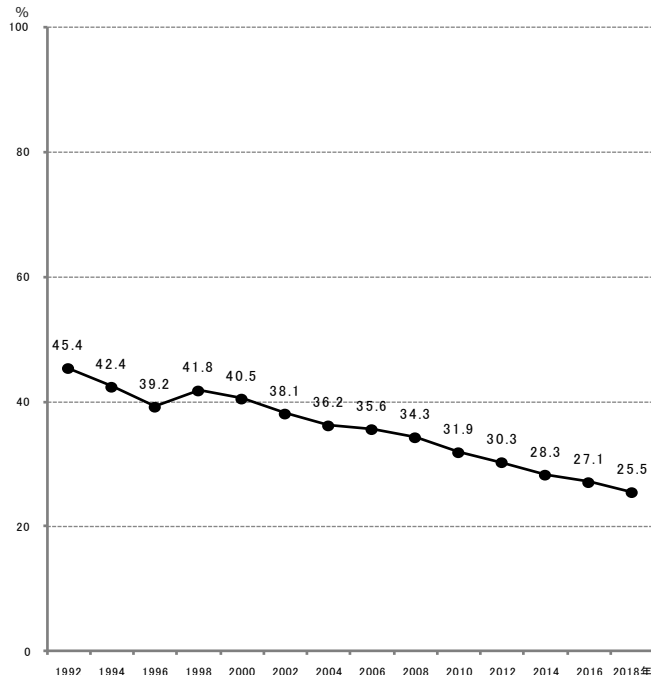


■ 遊び

家の中よりも、野外で遊ぶ方が好きだ

1992年45.4%→2018年25.5%(-19.9pt)

1992年の調査以降しばらくは40%前後で推移していましたが、2000年以降は継続して減少し、直近2018年に25%になりました。なお「一年を通して何かスポーツをしている」との回答も減少しており(1998年33.3%→2018年24.5%)、生活者の意識は家の中でも楽しみを見出す方向へと徐々にシフトしているようです。

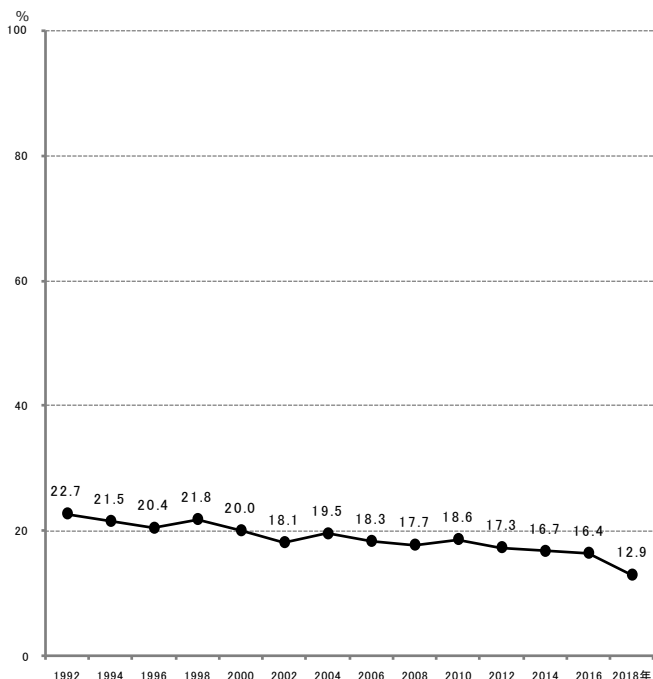


■ 衣

自分はおしゃれな方だと思う

1992年22.7%→2018年12.9%(-9.8pt)

1992年以降小幅に減少基調で推移していましたが、直近2018年で比較的大きく減少し10%台前半のスコアとなりました。「おしゃれ」と自任する人はこれまで多くはありませんでしたが、近年さらに少なくなっているようです。



■ 暮らし向き

電車がくるのを待っている時間にイライラする

1998年74.7%→2018年68.0%(-6.7pt)

1998年の調査以降しばらくは70%半ばで推移していましたが、2010年以降はゆるやかに減少し、直近2018年に68%と最低になりました。同様の質問で「スーパーのレジで待つ時間」についても1998年80.5%→2018年72.2%とこちらも減少。スマートフォンの普及などもあり、生活者は「待ち時間」に対して徐々に寛容になっているようです。

